

「禍福はあざなえる縄のごとし」と小山田隆広さん(安心計画社長)は5月24日の同社設立30周年記念行事で語った。300人を超える招待客を前に自身の生き様、事業歴を総括した格言の応用だった。一介の営業マン時代からの実体験をもとに、誠実にとつとつと語る。誇張は一切ない。素の人格が聞く人の胸を打った。

「家具インテリア業界と住宅業界を面で繋いでくれた。大変な功労者です」と小山田さんにお礼を言ったのは閉会間近だった。筆者のテーブルは雑壇前の来賓席、喜多俊之

さん(喜多俊之デザイン研究所所長)、利根川弘衛さん(東京インテリア家具社長)の間に挟まれ、回テーブルに杉之原富十子さん(日本ホームステイティング協会代表理事)が座り、共通項は「家具経済同友会」の役員、参与、事務局の土俵、杉之原さんは講師と

だった。幾多の危機は結果的に「福」になった。危機は深く小山田さんの美になり、現在は住宅産業に欠かせないソフト企業に成長した。当社もそうだったが、禍福は事業人生に、実に多くの教訓と成果も与えてくれた。危機が大きく多いほど、それに

禍福はあざなえる縄の如し

小山田さん人生

本紙 社長 長島貴好

して同友会で語り、業界で働く人々の多くがホームステイヤーの認定資格を得た。小山田さんは多くの失敗

例、会社設立都度の危機を語る。新規に仲間と立てた会社設立、事業計画書を電車の網棚に忘れて、全てを無にしたこともあ

倍したものを体と事業に残してくれた。だから小山田さんのように、淡々と正直に語れる。その事柄と話が真実であり、銜いを含まないからだ。こういう人は信じられる。まだまだ未来へのスタートラインに立ち続けていると、聴く人達は勇気を貰えたのだ。

同席のアイ・ホームの田村寛治社長と話をした。小山田さんの古い取引先だという。田村さんは「住宅を購入される上で、家具が非常に重要になってきた。家具業界の人達とコラボし、居住者によりよい暮らしを提供していきたい」と筆者と、利根川さんに語った。先に述べた小山田さんへの謝辞は、住宅と家具のコラボの場を作ってくれたこと、家具経済同友会に住宅関連企業を加盟促進してくれたことへ向けたものだ。



》 1165 《

同席のアイ・ホームの田村寛治社長と話をした。小山田

原基大経済研究院准教授が当社を訪ねてきた。「家具業界の経済史、家具産地の興亡を聞きたい」というもの。特に大川の歴史と現況に重点を置いて質問を重ねた。山浦徳衛氏、河内諒氏、森田虎雄氏らの名が出た。歴史を背負い貢献した人々だ。興隆期を築き今日の大川に繋げた。禍福をあざな

った縄の功労者だ。